

## 1 テーマ

少人数・複式学級における確かな学力の定着を図る学習指導の在り方  
～ 言語活動の充実を通して ～

## 2 NIEの目標

## 【低学年】

- 新聞の写真や文字に興味を持ち、新聞に親しむことができる。
- 新聞を活用して語彙力向上を図ることができる。

## 【中学年】

- 新聞に対する興味や関心を高め、新聞に慣れ親しむことができる。
- 新聞記事を読み、自分の考えを持ち、感想を書くことができる。

## 【高学年】

- 新聞各社の同一記事を比べて読んだり、記事と自分の考えを比べたりして感想を書くことができる。
- 確かな学力の定着を図るために、国語の授業（説明文）で学んだことを生かして、新聞記事を使ったワークシート（活用力を高める問題）に取り組むことができる。

## 【職員】

- 新聞を活用した指導法について研修を深め、各学年の発達段階に応じて実践する。

## 3 具体的取組

## (1) NIE教育に関する職員研修（研究授業含む）

## (2) 全学年共通の取組

- ア NIEタイムの実施（第2土曜日の朝の時間に実施 毎月1回）
- イ 新聞社への投稿
- ウ NIEコーナーの設置

## 4 研究の実際

## (1) NIE教育に関する職員研修（研究授業含む）

本校は、NIE実践校2年目である。今年度は、下記のような研究授業及び授業参観を行った。

	時 期	対象者	内 容
研究授業①	5月	5・6年	国語科「読むこと（説明文）」
研究授業②	10月	2年	国際理解教育（創意）「色やアルファベットで遊ぼう」
授業参観	10月	5・6年	学活「性被害と性加害」
研究授業③	10月	5・6年	国語科「読むこと（説明文）」
研究授業④	2月	3・4年	国語科「話すこと・聞くこと」

5 年	学 年	6 年
「見立てる／生き物は円柱形」(6/7時)	教 材	「笑うから楽しい／時計の時間と心の時間」(5/7時)
○ 「初め」と「終わり」に着目して要旨をまとめることができる。	本時の目標	○ 筆者の考えに対する見方の変化を捉えることができる。 ○ 文章の工夫から筆者の意図を読み取ることができる。
1 前時の振り返りをする。 2 本時の課題を確認する。 筆者が、読者に一番伝えたいことは何だろうか。 3 見通し黒板により本時の学習を確認する。 4 要旨を百字程度にまとめる。 ① 第1・11段落を読む。 ② 要旨のまとめ方を確認する。 ③ 要旨を書く。 5 1回目に書いた要旨をペアやグループで交流する。アドバイスを基に要旨を書き直す。 6 本時のまとめをする。 生き物は多様であり、円柱形だという共通性がある。生き物の多様さを知ると同時に、多様な物の中から共通性を見だし、なぜ同じなのかを考えることは実におもしろい。 7 筆者の考え(要旨)について、自分の考えを書き、考えを交流する。 8 本時の学習を振り返り、次時の学習の見通しをもつ。 9 新聞コラムを読み、筆者が読者に伝えたいことや小見出しを考える。	つかむ・見通す 5 7 10 8 7 8 8 8	つかむ・見通す 5 7 10 8 7 8 8 8
1 前時の振り返りをする。 2 本時の課題を確認する。 読者に納得してもらうために、筆者はどんな工夫をしているだろうか。 3 見通し黒板により本時の学習を確認する。 4 筆者の考えに対する、自分の考えの変化を捉える。 5 筆者の工夫をとらえ、どのような効果があるか考える。(個人) ①事例について ③文章構成について ②図表について ④文章表現について 6 筆者の工夫について、考えたことをグループで交流する。 7 工夫と効果を学級全体で話し合う。 8 学習のまとめをする。 筆者は、読み手に納得してもらうために、(事例)や(図表)(文章構成)(文章表現)を工夫している。 9 本時の学習を振り返り、次時の学習の見通しをもつ。 10 図・表が使われている新聞を読み、その資料が用いられた意図や効果について考える。	調べる 調べる 調べる 調べる 調べる 調べる 調べる 調べる	調べる 調べる 調べる 調べる 調べる 調べる 調べる 調べる
つかむ・見通す 調べる 深める まとめる 振り返る 生かす	つかむ・見通す 調べる 深める まとめる 振り返る 生かす	つかむ・見通す 調べる 深める まとめる 振り返る 生かす

① 図やグラフを使った意図や効果 (全員チャレンジ)

「子どもの最少」前年比17万人減 4月1日推計

子ども(14歳以下)の数と総人口に占める割合

1553万人

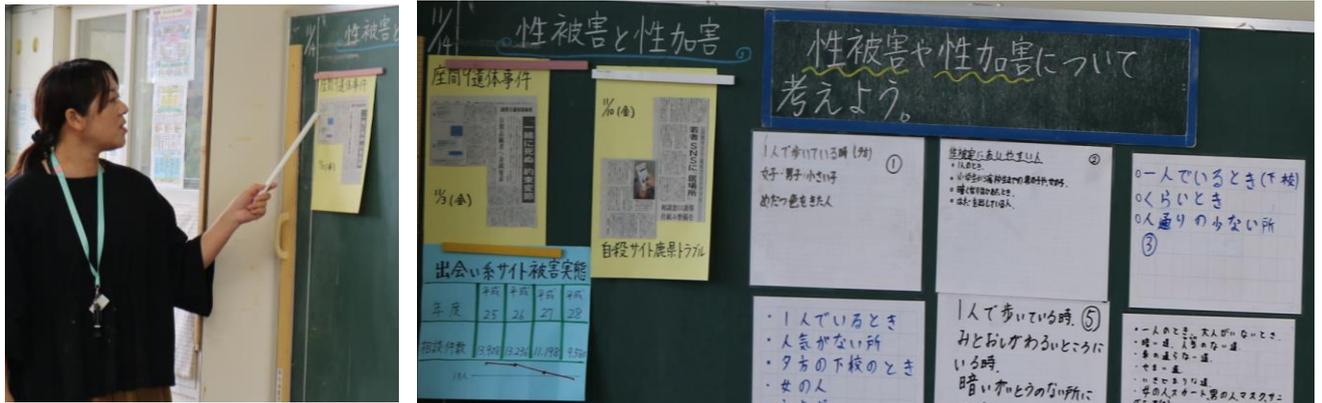
前年比17万人減

南日本新聞 平成30年 5月5日付1面

高学年の説明文学習では、「生かす段階」で本時の学習と関連したワークシートや「かごしま学力向上支援webシステム」を使い、活用力を高める問題に継続して取り組ませている。

イ 学級活動の取組

5・6年生は、10月に学級活動で「性被害と性加害」について学習した。導入で、性犯罪に関する記事を提示することで、本時の学習に課題意識を持って取り組むことができた。



(2) NIEタイムの実施

毎月1回(土曜授業日)の朝、「NIEタイム」を設定し、新聞を活用した活動を行った。

ア 低学年の取組

低学年は新聞に親しむことが目的なので、気になる写真を選び、その写真を見た感想を書いていく活動を続けて行った。

【1年生 4月 新聞について学ぶ】



【1年生 12月 写真を選びタイトルをつける】



【2年生 5月 写真を選びタイトルを考える】



【2年生 6月 写真の感想を書く】



イ 中学年の取組

中学年は、気になる新聞記事を選び、感想を書く活動を続けて行った。気になる新聞記事は、児童にお気に入りの記事を選ばせた。

【3年生 4月 教師と共に記事選び】



【4年生 4月 ペアで新聞を読む → 感想を書く】



## ウ 高学年の取組

高学年は、教師が意図的に選んだ共通記事について感想を書かせた。また、新聞が複数社届いた時は、同じ日付の1面の見出しを比べ読んだ。

【5・6年生 5月 共通記事の感想を書く】

【5・6年生 9月 複数紙を比較読みる】



### (3) 新聞社への投稿

南日本新聞ひろば欄の「若い目」や「子どものうた」等への作品投稿を積極的に呼びかけた。児童が作文や詩、俳句の表現を考えるいい機会になった。本年度は、35名中11名の児童の作文や詩が掲載された。掲載された児童には、新聞記事と顔写真をラミネートしてプレゼントしている。



## 5 成果と課題

### 【成果】

- 実践研究2年目の実績をふまえ、全職員で共通理解、共通実践しながらNIE教育に取り組むことができた。
- NIEタイムの取組や各学年の作品掲示を通して、子供たちが新聞に興味・関心を持つとともに、文章を読んで自分の考えを書く力が身に付いてきた。
- 新聞を読んで自分の考えを書いたり、友達と議論したりする活動を多く取り入れた。このようなNIE教育を導入したことで、全国学力・学習状況調査において国語Aの通過率はあまり変わらないが、国語Bの通過率は約4割上回った。NIE教育は、「活用力」向上に効果があることが分かった。
- 学級活動でも、新聞を活用することにより、子供たちが課題意識をもち、いきいきと学ぶことができた。

### 【課題】

- △ 各学年の発達段階に応じた新聞活用について、職員間で更に研修を深め、共通理解を図る必要がある。
- △ 家庭と連携したNIE教育の充実を更に図りたい。